

ふるさと探訪



[34]

国道173号の須知山峠

(綾部市域)に「四知(しち)橋」「三宝(さんぼう)橋」「二世(にせ)橋」の

三つの橋が架かっている。橋の名前は、中国・後漢の故事や仏教用語を基にして付けられている。

この三つの橋の名称に関

「四知橋」「三宝橋」「二世橋」

須知山峠に架かる3橋

須知山峠に架かる3橋

「天知地知我知子知」のこ

故郷へ行き来する際はいつも須知山峠を越えた。それだけに人一倍、三つの橋に愛着を感じたのだろう。土井さん宅には、竹次さんが生前、橋の命名記念に府から贈られた鳥取県産の諸鹿石(もろかせき)製の硯(すずり)が残されている。

命名は故土井竹次さん

三和町出身の元八田中学校長

故事など人生訓を引用

する相生町の梅垣昭平さんからの投稿を、あやべ市民新聞の四月十九日付「あやべ春秋」欄に掲載。その投稿「しちばし」の中で、梅垣さんは「工事担当者の中

に僧籍の方がおられたので

しょうか」と疑問を持って

いたが、梅垣さん宅に命名

者の関係者から電話があっ

た。八十歳で他界した竹次さん。竹次さんは教職一筋に

歩み、綾部

では八田中

の校長など

と。

広辞苑でその意味を調べ

ると、「二人だけの秘密で

も天も地も我も相手も知っ

ているから、いつかは他に

知れるということ」。竹次

さんは「だれに向かっても

恥じない正しい行をする」

とその意味を書いている。

「四知」の語音が「須知」

に通じる点も考慮した。

三宝橋の「三宝」は仏、

法、僧の意味。「二世橋の

「二世」は「前世と現世」

「現世と来世」を指す。「人

の現世の不幸は前世の報い

で、現世で善徳を積んでお

くと輝かしい来世が約束さ

れる」と説いている。人生

訓を橋の名として刻んだの

かもしれない。

橋の命名記念に

府が硯を贈る

竹次さんは三和町出身。

竹次さんは生前に橋の命名記念に府から受けた諸鹿石製の硯を手にする道野さん(新宮町で)



竹次さんが生前に橋の命名記念に府から受けた諸鹿石製の硯を手にする道野さん(新宮町で)

竹次さんは、各橋の名称についての文書を残している。それによると、四知橋は後漢の故事の「四知」を引用した。四知とは

竹次さんは生前に橋の命名記念に府から受けた諸鹿石製の硯を手にする道野さん(新宮町で)

道野さんは「市民の方でも三つの橋の名前を知る人は少ないと思う。今後、須知山峠を通られる方がほんの少しでも橋のことを気に留めて下されれば幸い」と話している。

(高橋)



四知橋の親柱には「四知」を説明した文が刻まれている(寺町で)